

巻 頭 言

「学習開発学研究」は、本号をもって8号を発刊することになった。「学習開発学研究」と名称を改めてから8年、前身の平成12年3月発刊の「学習開発研究」からは、既に14年が経ったことになる。この間には、発行母体である学習開発学講座もいくつかの変遷を重ねてきている。平成9年4月に学習開発基礎講座と学習支援講座からなる博士課程後期の独立専攻として設立された学習開発専攻は、平成12年4月に学習開発学講座を中心とする博士課程後期学習開発専攻の学習開発基礎・支援分野となり、さらに博士課程前期の学習科学専攻学習開発基礎専修も加わることとなった。すなわち、この平成12年に、今の学習開発学講座の形に定まったといえるだろう。

今年度末には、独立専攻発足当初の平成9年から17年間にわたり学習開発学講座にかかわってこられた森敏昭先生が広島大学大学院教育学研究科を退職されることになった。この「学習開発学研究」の変遷も、その発行母体である学習開発学講座の変遷も経験し、ずっと見続けてこられた先生の退職に刊行されることになったこの学習開発学研究第8号では、森敏昭先生の退職記念特集号と位置づけ、学習開発学とは何であったのかまた何であることを求められているのかを振りかえるため、研究論文だけではなく、これまで学習開発学講座の発展に寄与して頂いた歴代の客員教員、修了者に随想の寄稿も求めることとした。

森先生の巻頭論文はもとより、喜ばしいことに、関係各位の先生方から12本の随想と26本の研究論文をいただくことができた。これらを見ていただければ、学習開発学の来し方行く末、あるいは、これまで残してきたこと、今の姿、そしてこれから期待されることが、少しでもわかってくるように思える。講座を担う我々としては、これを糧として、今後も学びにかかわる理論と実践を往還させる場としての学習開発学研究をよりよいものとしていきたい。

この研究紀要や編集主体の学習開発学講座の発展には、多くの方々のご指導が必要である。今後も、広くご意見、ご批判を賜れば幸いである。

平成27年3月

広島大学大学院教育学研究科
学習開発学講座主任
編集委員長 井上 弥